

la santé 健康

ラ・サnte



vol.141
平成31年1月25日

2019 新春

編集・発行:社会医療法人玄真堂
広報委員会:柚木尚美、宝珠山理絵
中津市宮夫14-1
TEL0979-24-0464
<http://kawashimahp.jp>



『喜びの日』川島 照代 画

理 念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント(説明・同意・納得)を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。

新年のご挨拶

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院
院長 川島 眞之



新年、明けましておめでとうございます。平素より当法人に対しましてご支援・ご高配をいただき誠にありがとうございます。ごさいます。

最近では1年を振り返ると必ずといってよいほど大規模な災害が頭に浮かびますが、毎年恒例の清水寺で発表される漢字は昨年は「災」が選ばれており、特に多くの方が災害を意識した年となったようです。4月には中津市内、耶馬溪の山崩れに始まり、6月には大阪北部で震度6弱の地震、7月には西日本（岡山・広島）を中心に北海道から九州にまで広範囲にわたる豪雨、9月には震度7と発電所

のブラックアウトを伴った北海道胆振東部地震と枚挙に暇がありません。全体的にみれば年始より日本海側では30数年ぶりの豪雪、一方で夏には前述の豪雨のほか、全国で戦後の統計開始以降の記録的な猛暑を経験し、東から西に逆走する台風など、普段経験しないような現象が幾重にも押し寄せてきた感があります。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。30年以内の南海トラフ地震の発生確率は80%と予想されているものであり、この地域でもしもの災害が発生した場合には災害医療にも迅速に対応できるように備えていかねばならないと身が引き締まる思いがいたします。

さて昨年は診療・介護報酬同時改定が行われました。各論では様々なところがあるかと思いますが、急性期医療でみると入院基本料における看護配置等の見直しがなされています。世界的に見て看護師の数で診療報酬（入院療養費）が決まるといふ国はおそらく例がなく、極めて特異な状況であり、（絶対的ではなく）相対的な看護師不足を招くなど医療現場の混乱の一因になっていきます。本来、患者さんの重症度や病態に応じた医療の質の対価として診療報酬は決められるべきものであり、今回の改定はその方向に向かっただけの第一歩になるものと期待したいと思います。

本年は当法人理事長が11月25～26日に国際学会（アジア太平洋潜水・高気圧環境医学会）を中津で開催することになっていきます。各分野において日本が国際的に埋没することが懸念される中、日本がアジアと欧米のまさに架け橋となつてその存在感をアピールするとともに、多くの方々に中津に集まって頂き、熱い議

論を交わしながら世界友好の和が広がる場になればと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



韓国救急医学会にて理事長講演

—化膿性骨髄炎に対する高気圧酸素治療—

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

理事長 川島 真人



韓国にて講演

2018年10月19日、韓国の仁川（インチョン）国際空港に近い新興都市・松島（ソンド）の国際会議場で韓国救急医学会が開催され、3000人の参加者を前にして『化膿性骨髄炎に対する高気圧酸素治療』と題して講演をさせて頂いたので報告する。

海外からの特別講演者は私以外ではアメリカの高名なペンシルベニア大学のステイブ・トム元教授だけだった。韓国でも感染症に対して高気圧酸素治療が少しずつ取り入れられ、既に30基の高気圧酸素治療装置が導入されてい

る。私が日本骨・関節感染症学会の名誉会員であり、また国際潜水・高気圧環境医学会の名誉会員である事から招聘講演者として声をかけられたと思われる。

はじめに

筆者は生後30日目にして乳幼児の右大腿骨化膿性骨髄炎となり40℃の熱が7日間続き、チアノーゼ状態になり生命の危機に陥ったそうである。その時に現在の村上記念病院10代目の村上和三先生が右大腿骨の病巣を発見し、高崎皮膚科の高崎澄先生によって切開排膿され、危ういところで命が助かったそうである。今でもその時の癍痕が11cmほどの傷として右大腿部に残っている。

私がこの骨髄炎に関与するようになった主なきっかけは、1969年〜1972年にかけて、その当時最も優れた研修施設を持っていた東京



図1. 虎の門病院時代

の「虎の門病院」での研修医の時代である（図1）。1969年、虎の門病院で研修を受けていた時、12歳の時から各地の病院で18回もの手術を受けたが、依然として排膿が続いていた20歳の女性患者が当病院を訪れてきた。我々も2回の搔爬手術を行ってみたが全く無効で排膿が続いていた。この患者の病名は化膿性

右肩関節炎及び右上腕骨骨髄炎だったが、この治療法を模索していた時に川端正也部長の勧めで読んだ米国の論文の

中に局所持続洗浄療法という方法がある事を知り、見よう見まねでこの局所持続洗浄療法を、搔爬手術後2週間行つたところ劇的に治癒した。それ以来、骨髄炎にはこの治療法で取り組み、様々な工夫を凝らし川島式持続洗浄チューブセットを作りだした。このセットは現在、川澄化学工業

（株）で生産し、コーサメダイカル（有）（☎0977-21-3398）で販売している。

●局所持続洗浄療法の普及

この治療法を虎の門病院では16例の患者に行い、更に1972年、九州労災病院勤務になつてからも256例の患者に行う事になった。

九州労災病院での私の師匠、天児民和九州大学名誉教授・九州労災病院院長（図2）から私に「医学の勉強をする

事は苦しいけれども大変楽しい事でもある。医学は科学であり臨床は応用学である。哲学・人間学・歴史学を学びなさい」と言われ、医史学も学びながら先生の哲学を実践するように頑張ってきた。その中で先生が「高気圧酸素治療と局所持続洗浄療法は必ずや普及する治療になるであろう」と言っておられたお陰で、この2つの治療法に生涯をかける事になった。

私が九州労災病院勤務時代、1970年代の起炎菌の大半が黄色ブドウ球菌 (staphylococcus aureus) で、しかも血行性は76・9%、外傷性は54・4%と圧倒的に血行性が多かった。しかし、その頃から徐々に血行性が減ってきているのが最近の現状である。化膿性骨髄炎が難治性になる最大の原因は、炎症に伴って血管が栓塞し虚血状態になってしばしば腐骨や壊死骨が見られ、壊死骨の周りでは細菌がバイ



図2. 天児民和先生

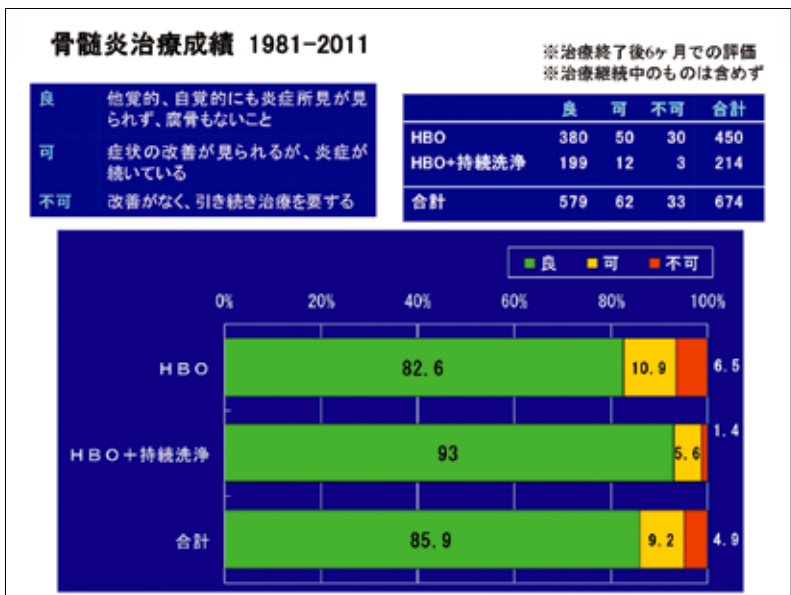


図3. 川嘉式閉塞防止回路

オフィウム(菌膜)を作成して抗菌剤や細胞液性抗体の作用を受けにくいという事から始まっている。近年では黄色ブドウ球菌が70%であるが、その中でMRSAが75%に及んでいる。脊椎外科術後感染は0・9%の感染率、全人工膝関節置換術の術後感染率は0・5〜5%と報告されている。

●**持続洗浄療法の実際**
 持続洗浄療法の実際について述べてみる。
 まず第一に徹底的に病巣局所を搔爬し、また硬化した壁などは完全に除去してから川嘉式閉塞防止回路をセットする(図3)。これが持続洗浄療法である。
 当時の持続洗浄療法は、トプラマイシンやゲンタマイシン

ンなどの抗菌剤を使用していたがその後、10%のポピドンヨード10mlを1000ccの生理的食塩水に溶解して、1日3000ccを流している。近年は後述するようにオゾンナノバブル水をポピドンヨードの代わりに使用している。
 我々は局所持続洗浄を行う前の九州労災病院の骨髄炎の治療成績を調べて1975年



(表1)

●**高気圧酸素治療の導入**
 1981年、中津に川嘉整形外科病院を創立して以来、更なる治療成績の改善を目指して1981年〜2011年の期間に674例、男性451例、女性223例(平均年齢55・5歳)に対して高気圧酸素治療を行った治療成績を見ると674例中、450例は高気圧酸素治療のみを施したところ、30例(6・5%)は再発があったが、局所持続洗浄療法と高気圧酸素治療を併用すると再発率が3例(1・4%)と顕著に減少し

に臨床整形外科雑誌に発表した。この過去15年間、337例の成績を見ると搔爬のみでは再発率46・1%だったが、持続洗浄を行う事によって総治療期間が短縮され平均6週間で退院し、症例を重ねるにつれ再発率約10%になり、更に下げる方法がないかとその後、色々と考え工夫をした。



Lee 学会長と

明した。差がない事が判

果も殺菌力にはほとんど優位の

なつた新鮮な魚介類のキムチ鍋の味も格別であった。

望したところ、大いなる反響があつた。講演後、ご馳走になつた新鮮な魚介類のキムチ鍋の味も格別であった。

用していたポピドンヨードと比較・検討した結果も殺菌力にはほとんど優位の

望したところ、大いなる反響があつた。講演後、ご馳走になつた新鮮な魚介類のキムチ鍋の味も格別であった。

洗浄が出来るようになった。洗浄が出来るようになった。

用があるにもかかわらず、生体

界でも有数の治療成績を上げているという話をする事が出来た。

●オゾンナノバブル水の応用
この持続洗浄療法において最大の難点であつた回路の閉塞に対して、東京医科歯科大学の眞野喜洋名誉教授の開発したオゾンナノバブル水を使用したところ、洗浄中のチューブが閉塞する事がなくなった。液の漏れもなく患者にとつても快適な環境で持続洗浄が出来るようになった。

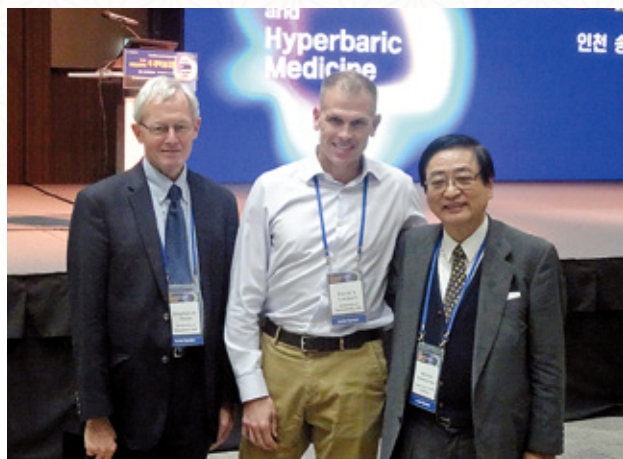
菌の殺菌作用のみならず局所の組織の修復力や洗浄作用があるにもかかわらず、生体

改善する事によって現在、世界でも有数の治療成績を上げているという話をする事が出来た。

ている(表1)。持続洗浄療法に高気圧酸素治療を併用する事がいかに重要であるかという事を証明している。

その殺菌力においてオゾンナノバブル水は、ポピドンヨードと比較しても優位の差がなく使用できるという事が症例によつてわかつた。このオゾンナノバブル水は、約300種類の細菌の殺菌作用のみならず局所の組織の修復力や洗浄作用があるにもかかわらず、生

改善する事によって現在、世界でも有数の治療成績を上げているという話をする事が出来た。



トム教授と(一番左側)

地域医療の発展に貢献

当院理事長 川寫眞人が秋の叙勲にて旭日双光章を受章いたしました

1975年から潜水病と骨壊死の研究を世界各地の学会で発表してきました。1981年に川寫整形外科医院(現・川寫整形外科病院)を開院。難治性の骨感染症や潜水病の治療法を確立し、国内外の地域医療の向上に尽力。2002年から6年間、中津市医師会長を務め医療連携の取り組みを進めてきました。



第136回 西日本整形・災害外科学会 学術集会に参加して

医師 嵐 智哉

2018年11月23日(金)・年々変化しております。本学
24日(土)の両日、長崎で開 会では当院から2題の演題を
催された第136回西日本整 発表させていただき、私は『若
形・災害外科学会学術集会に 年者における大腿骨頸部疲労
参加させていただきました。 骨折の2例』というところで発
整形外科領域では近年様々な 表させていただきました。超
新見が加わり、診療内容も 高齢化社会をむかえた日本に



おいて高齢者の骨折
は年々増加しており
ます。それに合わせ
て骨折治療に使用す
る様々なインプラン
トが開発されており
ます。それぞれのイ
ンプラントには様々
な長所と短所があ
り、その方に合わせ
たインプラントの使
用が望ましいと思わ
れます。私たち整形
外科医はそのような
情報をいち早く取り

第60回 全日本病院学会に参加して

リハビリテーション部 主任 斉藤 直人

2018年10月6・7日に
東京で行われた、第60回全日
本病院学会に参加し、発表さ
せて頂きました。この学会は、
医療・介護職が中心となり、
日々の業務における技術研鑽
や経営マネージメント等の活

入れ、日々知識のアップデー
トが必要となっており、それ
がより良い医療を提供するこ
とに直結すると考えます。本
学会では様々な症例に対して、
その分野で著名な先生方によ
る活発な討論が行われ、非常
に刺激を受けることができま
した。本学会で得た知識を今
後の医療に活かして、患者さ
ん一人一人、その方に合った
より良い医療を提供していけ
ればと考えております。

動報告、また他施設や他職種
間でのコミュニティーの場と
しても全国から多くの参加者
が集まる研修会です。

今回、私はリハビリ部門で、
『頸椎化膿性脊椎炎による、右
下肢不全麻痺患者に対して、
歩行能力拡大に向けた包括的
アプローチの一考察』という
タイトルで、炎症所見と下肢

機能回復について、ポスター
発表させて頂きました。発表
後は、他施設の方々より多く
のアドバイスを頂き、
同様の経験談も聞かせて頂き、
とても参考になりました。有意義な
時間となりました。

今後また、院内だけでな
く学会や研修会等に参加し、
他施設の方々とも積極的に情
報交換していきながら知識向
上や技術研鑽、連携を強めて
いきたいと改めて感じました。



第20回日本骨粗鬆症学会での発表を終えて…

5階病棟 椎野 江美

2018年10月26日(金)～28日(日)、長崎県で行われた第20回日本骨粗鬆症学会に参加しました。長崎ブリックホール・長崎新聞文化ホールの2会場に延べ7000人が集まり、終日各種発表やセミナーがありました。

当院からは看護師2名・リハビリより2名が参加し、骨粗鬆症(OLS)委員会での活動報告や、各部署での取り組みについて発表を行い、それぞれに影響を頂きました。当日の発表はすごく緊張しましたが、活発

な意見交換もでき、とても良い経験になりました。3日間と長丁場でしたが、有意義な時間を過ごす事ができ、本学会に参加させて頂けた事に感謝しています。

2017年7月に骨粗鬆症委員会を発足したばかりで、活動内容はまだまだ満足いくものではなく、課題も山積しています。これからも積極的に学会や勉強会に参加しながら骨粗鬆症についての知識を深めていきたいと思えます。そして、入院患者さん、外来患者さんを問わず、骨粗鬆症について分かりやすい指導と治療が提供出来るよう活動していきたいと思えます。

病棟、クリニック外来、リハビリ、地域連携室に「骨粗鬆症マネージャー」が在籍しています。骨粗鬆症の事でご質問などあれば、遠慮なくお声掛け頂きたいと思えます。



リフレッシュ休暇

クリニック・リハビリテーション科 永津 義竜

2018年10月30日～11月4日、事務の長岡係長、植田、吉松看護師の4人でリフレッシュ休暇でハワイへ行かせて頂きました。

ハワイでは本場のハロウィンパーティーやパラセーリング、登山、有名店巡りなどをして大変楽しい時間を過ごさせて頂きました。

最も印象的だったのは、現地の方々はとにかく社交的であり、誰に対しても話

をする雰囲気がとてもあるということです。

例えば、ハロウィンでは私は警察官のコスプレをして街を歩き周りま

した。その際、すれ違う現地の方々が「僕は何も悪いことしていませんよ」や「ごめんなさい。反省していますので逮捕しないで」などといった冗談を言いながら話しかけてきた。現地の警察官までが私を見て「Good Job!」

と突っ込んできたりしました。ベンチで休んでいる時も必ず話しかけられるなど、とにかく会話をする機会が多かったです。

この様な時間を過ごす中で、現地の方々の考え方や価値観、ハワイの文化についてなどを知ることができ、また自分と比較することで、自分の価値観を違う視点から見直し、それを繰り返していくうちに物事を観る視点が増えていく感じがありました。

この経験を、患者さんの考え方、感じ方などを理解することに役立て、より良い医療を提供できるように努めていきたいと思えます。





所感..地域連携

副院長 永芳 郁文

医師になって30数年が過ぎ、平成の世も終わろうとしています。戦後の平和という恩恵を受けつつも、グローバル化やIT革命が叫ばれ、新たなうねりに飲み込まれた時代でもあったようです。価値観の多様化が進み、それを示すダイバーシティという言葉もあちこちで目に付くようになりました。

しかしこれはホントウの姿なのでしょうか。個々が熟した時代といえば聞こえはいいのですが、多様化を認めるということは裏返すと他者への無関心になりかねません。テレビやネット、その他あらゆる面において、思慮や分別のない感情を優先させた、または意図を考慮しない都合のよい解釈で切り取られた情報が氾濫し、自国が一番の個人主義、利己主義が台頭してい



るのが現状でしょう。今の社会に必要とされるコミュニケーション一つをとっても、スキルばかりが横行し、その精神まで掘り下げられることはありません。

そういった今だからこそ、立ち止まってホントウを考えることが大切なのではないでしょうか。感情論には、だれも逆らえないからこそ、根拠のある判断が必要となると思われまます。第2次世界大戦の反省から多くの学者たちが残してきた足跡、これまで変化しつつも確実に堆積してきた思想や思考の数々：感情的な信念や感想ではなく、フィロソフィーによって裏打ちされた意見、これらを立脚地としてホントウを考えると、今の危うさを感じずにはおれません。思考のレガシーに牙をむき、土足で踏みこむに等しい現在の風潮。他言すれば、混乱する現代においては、思索に裏打ちされた観想こそが行動の動機となるべきではと思われまます。合理性を求められる現代に、あえて非合理的な「道徳性」を求め、自己が最重要視されるなかで、あえて「他者への想い」を課題とする。功利的、結果的な良さよりも、動機の善し悪しにあえ

て帰着していくことの重要性を再認識したいと思えます。十人十色がいまの世相であっても、それぞれから取り出された、合意できる普遍性については十人一色でなければなりません。またその想いを語るだけでは居酒屋談義にすぎません。形にしていくことが大切であり、知行合一が問われるところでしょう。

今後の地域医療の実践とはまさにこの延長にあるべきもので、とくに地域包括ケアという概念は医療と介護の連携なくしては成立しません。以前ご紹介した豊前豊後地域連携パスや骨粗鬆症治療システム(リエゾンサービス)もそれを支える大きな屋台骨の一つなのです。多くの職種の人々が施設の枠を乗り越えて集い、意見交換と思考錯誤を繰り返しつつ、現在に至っております。共感、共鳴できる人々の個々の想いこそが、今後の介護医療連携を支え、育んでいくものと思っております。完成の青写真もなく取り組んできた地域連携。しかし青写真がないからこそ、多くの意見を自由に取り入れて、自在に変更させてゆくことも可能なのです。はき違えのないダイバーシティがここにあるとも言えるでしょう。

効果的な使い方(節電)を知ろう

省資源・省エネルギー委員会 杉元 佐由理

設定温度を出来るだけ低く

エアコンは室内を設定温度にすることに電気を使います。夏に比べて冬場は20℃前後の温度差を埋める必要があり、そこに電気を使うので、設定温度をできるだけ低く抑えれば電気代も抑えられます。

自動運転モードで

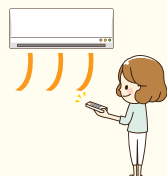
エアコンの運転モードは自動運転や省エネ運転に設定し、なるべく電源はつけたり消したりしないようにしましょう。

窓の断熱を

窓ガラスを断熱ガラスにしたり、断熱シートや断熱フィルムを窓に貼って冷気をシャットアウトしましょう。また、厚手のカーテンや断熱カーテンも効果的です。

部屋全体を暖める工夫

エアコンから出た温風は、部屋の天井の方へ溜まっていきます。風向きを下向きに設定しておくことも一つの手です。



フィルター掃除はマメに

フィルターが目詰まりしているとエアコンの性能が落ち、余計な電気を使うこととなります。2週間に1度はフィルターの掃除をしてみましょう。



利用者様の長寿をお祝しました！

介護福祉士 高山 大輝



2018年9月19日、なのみ
敬老会を行いました。

当日は気持ちの良い晴天に恵まれ、会場をより一層明るく引き立て、敬老会を一緒に盛り上

げてくれているか？のように感じられました。

午前中に行われた長寿表彰式では、代表して4名の利用者様に、刺繍をあしらった職員手作



表彰



平成30年11月3日、リハビリテーション部 部長代理の杉木知武が、介護認定審査会委員として永年に渡り介護認定業務に尽力した功績が認められ、中津市より表彰されました。



りの表彰状とケープを贈呈し、お祝いさせて頂きました。利用者様が互いに、これまでの「健康や幸せ」をねぎらう姿を見て、この時間が良い思い出になってくれれば嬉しいいな♪と思いました。

午後からは、理事長たちによる「本場アンデス」のケーナの音色がさらに会場の空気を和ませ、全利用者様も各自楽器を持ち、リズムにのって音楽を楽しんでいらつやいました。職員による出し物では、利用者様と一緒にレクリエーションをしたり、職員が仮装をして本人になりきり歌やダンスを披露する

緑が増えました！

デイサービスひだまり (美化委員長) 古川 智依子



当院の美化委員会では、理事長が育てたたくさんの植物の中から、『アジサイ』『アオキ』を主に、『挿し芽』を行い、新たに鉢数を増やす活動を行っていきます。毎年11月にこの活動を行って行っているのですが、今年も委員総出でたくさんの新入りが準備出来ました。根付いた植物は、建物内の環境美化として各待合室や廊下に飾り、目にも環境に

と利用者様は大笑い、手拍子で一生懸命応援してくださいました。また二人羽織では、普段見られない職員の姿を見て会場のボルテージも上がり、笑いあり涙あり!!「すごく面白かった!」と楽しんでくださいました。今回私は初めて敬老会に実行委員として参加させて頂きました。初めてのことで戸惑うこともあったのですが、振り返ってみると自分が一番楽しんでいたのではないかとと思います。次の行事も利用者様に楽しんでもらえるよう頑張りたいと思います。

も優しい空間作りを行っています。

他にも観葉植物など、多くの植物を室内に飾っていますが、皆様もご存じの通り、緑は空気の浄化作用を持ち、健康被害を抑える役割を持つと言われています。よく聞かれる「マイナスイオン」は心拍の安定、血圧を下げる効果、リラックス効果があり、心の健康のみならず体の健康に大変良い働きをしてくれるそうです。この「マイナスイオン」はすべての観葉植物から発生しているといわれます。そして何よりも、働いている私たちにとつて緑の多い職場は快適です。

これからも委員会活動を通して、皆様に治療の場だけではなく、心まで満たされる病院、施設を作っていきたいと思えます。



2018.10.26～27

第20回日本骨粗鬆症学会 (熊本県)
「OLS委員会活動の取り組みとその成果～骨粗鬆症治療の充実と患者指導の標準化の確立～」
椎野看護師発表

2018.10.28

大分県理学療法士協会 大分ブロック研修会 (大分市)
「股関節をみる臨床での第一歩」
奥村リハビリテーション部科長講演

2018.11.18

大分県理学療法士協会 第4回新人教育プログラム (別府市)
「研究方法論」
井原理学療法士講演

2018.11.18

第36回大分県病院学会 (別府市)
「OLS委員会活動の取り組みとその成果～骨粗鬆症治療の充実と患者指導の標準化の確立～」
椎野看護師発表
「新人看護師教育に対する学習支援～患者体験研修を導入して～」

吉松病棟看護師発表

「遷延性CO中毒患者に対する意識回復に取り組んだ1例」
米光病棟看護師発表

「当院における減圧症とその画像所見」
高橋診療放射線技師発表

「当法人におけるTQC・TQM活動」
杉木リハビリテーション部部長代理発表

2018.11.23～24

第136回西日本整形・災害外科学会学術集会 (長崎市)
「若年者における大腿骨頸部疲労骨折の2例」
嵐医師発表

院内勉強会

モーニングセミナー

2018.9.21

「靴の話」
後藤副医長

2018.10.19

「医療と健康の小ネタ集」
原西麻酔科部長

2018.11.16

「培養検体提出の基本」
小出石検査科副主任 (ICT)

カワシマハンドセラピー研究会

2018.9.10

「基節骨骨折を呈した2症例」
岸本リハビリテーション部副主任

院外発表・講演

2018.9.7～9

第52回日本作業療法学会 (愛知県)
「肩鎖関節脱臼に対するclavicleHookPlateの治療成績-後療法における挙上制限の有無と理学所見の違いについての検討-」
岸本リハビリテーション部副主任発表

2018.9.26

平成30年度運動と健康づくり推進員養成講座「元気ハツラツ教室」 (中津市)
「運動障害と予防」
奥村リハビリテーション部科長講演

2018.10.6～7

第60回全日本病院学会in東京 (東京都)
「当院での長管骨骨髓炎に対する治療と治療成績」

田村クリニック所長発表

「院内トリアージ算定率増加への取り組み」
相良医事課職員発表

「リウマチで生物学的製剤を投与している患者への看護～パンフレットを用いた患者参画型指導を行って～」
大島外来看護師発表

「オゾンナノバブル水を用いた骨・関節感染症に対する局所持続洗浄療法」
山口高気圧治療科副主任発表

「地域包括ケアを念頭に置いた、医療と介護の連携～老健施設における「在宅復帰」支援への取り組み～」
沖本介護老人保健施設なのみ副施設長発表

「頸椎化膿性脊椎炎による、右下肢不全麻痺患者に対して、歩行能力拡大に向けた包括的アプローチの一考察」
齊藤リハビリテーション部主任発表

2018.10.13

運動器疾患／骨・関節フォーラム (熊本県)
「内側半月後角横断裂と膝骨壊死」
本山第一診療部長講演

2018.10.13～17

九州理学療法士・作業療法士合同学会in沖縄 (沖縄県)
「超音波画像装置を用いた膝蓋下脂肪体の動態を定量化する指標の検討」

辛嶋リハビリテーション部副主任発表

「変形性股関節症患者の歩行中の骨盤-大腿運動の協調性」
井原理学療法士発表

「手根管症候群における重症度と神経伝導検査およびSemmes-weinstein monofilament testの関連性についての検討」

岸本リハビリテーション部副主任発表

「手根管症候群における電気生理学的重症度と正中神経の形態との関連性」
仙石作業療法士発表

2018.10.17

大分県理学療法士協会 県北ブロック研修会 (中津市)
「股関節機能障害に対する理学療法」
羽田リハビリテーション部主任講演

2018.11.1
「腓骨断裂の自然経過と保存療法・手術適応」
井原拓哉理学療法士

膝関節勉強会

2018.9.12
「中高年の半月板損傷について」
屋久理学療法士

2018.10.10
「膝関節疾患の鑑別評価を中心に」
橋本直樹理学療法士

2018.11.14
「膝関節周囲筋の解剖と機能」
斉藤リハビリテーション部主任

看護部勉強会

2018.9.10
「褥瘡について」

2018.9.25
「院内トリアージについて」

2018.11.28
「医療安全（医療ガス）について」

「(屈筋腱断裂) ①腱が癒合する期間、周囲癒着の発生する期間」

安田作業療法士

2018.10.29
「Dupuytren拘縮を呈した1症例」
川端作業療法士

「(屈筋腱断裂) ②各動作の腱にかかる張力、滑走距離」
杉木リハビリテーション部部長代理

2018.11.19
「左変形性手関節を呈し、小指屈筋腱断裂し、腱移行術とS-K法を行なった症例」

安田作業療法士

「(屈筋腱断裂) ③縫合法による抗張力」
辛嶋リハビリテーション部副主任

川島肩をカタろう会

2018.9.26
「肩の痛みに対する理学療法consensus」
松田理学療法士

2018.10.1
「関節包靭帯について」
尾道理学療法士

医局抄読会

第1、2、4火曜日の朝7時45分スタート

2018.9.4
オピオイドの処方量と整形外科手術における術後成績との関係
嵐医師

2018.9.25
非接触型ACL損傷における股関節と足関節の運動学-モデルベース画像マッチング法による動画分析-
本山第一診療部長

2018.10.2
マレイ人の長掌筋腱の欠損
古江第二診療部長

2018.10.9
大腿骨近位部骨折高齢患者の疼痛管理プロトコルにおいて計画的なアセトアミノフェン静脈注射は有効か
川島院長

2018.11.6
TKAとTHA術前にオピオイドを使用すると再入院と再置換術が増加する
渡邊副医長

2018.11.13
関節鏡視下肩関節前方安定化再手術の失敗における危険因子
佐々木医局長

2018.11.27
靭帯再建・腱球挿入術の後療法におけるランダム化前向き研究
後藤副医長

論文（共同含）・誌上発表

- 古江幸博：有鉤骨鉤骨折に対する鉤直上切開による骨片摘出術の成績，日本整形外科スポーツ医学会雑誌，38(2)：71-73，2018.
- 奥村晃司：股関節の不安定性，股関節理学療法マネジメント 機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く：229-247，2018.
- 川島眞之ほか：骨・関節感染症に対するオゾンナノバブル水を用いた持続洗浄療法と高気圧酸素治療，全日本病院出版会，31(10)：140-148，2018.

第36回 玄真堂友の会開催のお知らせ

開催日：2019年3月16日(土) 14:00~16:00

場所：川鳶整形外科病院1F 玄真堂ホール

テーマ 「ストップ骨粗鬆症・ストップフレイル」

加齢に伴って筋力や骨の強度が低下し、心身の活力が低下してきます。健康で自立した生活を送れる「健康寿命」を延ばし、生き活きた人生を過ごすための講話をいたします。

友の会会員以外の方も入場無料です。ケーナやコーラスによるオープニングや健康クイズ等、盛り沢山な内容となっております。

最新医療・健康情報を
共に楽しく学びましょう。



お詫びと訂正

2018年10月25日発行の『ラ・サンテ140号』の7ページ、『第10回職人フェスティバルにボランティア参加して』におきまして誤りがありました。
正しくは以下の通りです。
・P7最下段11行目 (誤) 『約10ヶ所のブースが』
(正) 『約70ヶ所のブースが』
読者の皆さま、今吉次郎さま並びに関係各位に迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させて頂きます。
(社会医療法人玄真堂広報委員会)

一人ひとり職員の熱い思いが込められたブログです。是非、一度ご覧ください。

看護師、リハビリ職、介護職、ケアマネージャーやソーシャルワーカーなど様々な職員が、利用者様を自宅で安全に、より幸せに生活できるように全力でサポートしています。その様子が少しでも伝われば幸いです。

日々の仕事内容や、仕事に対する思い、葛藤、または職員のちよつとしたプライベートや介護に関する豆知識など多岐にわたって内容が更新されています。

私たちが在宅事業部の職員で更新している「かわしまさんの介護のすずめ」というブログをご存じでしょうか？

【かわしまさんの介護のすずめ】

川鳶整形外科病院 在宅事業部 電子広報係



編集後記

新年明けましておめでとうございます。いつも当院広報誌ラ・サンテを御愛読頂きありがとうございます。いよいよ新時代の幕開けです。本年も皆様にフレッシュな情報を見やすく分かりやすくお届けできるように、広報委員一同頑張っております。本年もどうぞよろしくお願い致します。
(Y・N)

【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

[患者様の権利]

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

[患者様の責務]

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い